

調査から分かったこと

調査回答者の年齢別構成比は、「60歳代」が28.3%と最も高く、次いで、「70歳代」21.9%、「40歳代」14.4%である。「20歳代」は5.8%となっている。母集団構成比（「60歳代」16.8%、「70歳代」12.0%、「40歳代」19.6%、「20歳代」13.3%）と比較すると、60歳以上の方の意見がより強く反映されていることを考慮しておく必要がある。

1 吹田市福祉巡回バス廃止に伴う影響

(1) 福祉巡回バスの利用実態について

福祉巡回バスに「乗ったことがある」のは、60歳未満で0.9%、60歳以上で18.7%である。

自身または家族が福祉巡回バスに乗ったことがある方のうち最も多い地域は、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」で、33.8%である。一方、最も少ない地域は「豊津・江坂・南吹田地域」で10.2%である。

主に利用したルートは、「中ルート」32.5%、「北ルート」30.6%、「南ルート」29.9%の順である。

利用頻度は、「特に決まっていなかった」方が最も多く、21.7%である。

福祉巡回バスで外出した用事で最も多いのは、「通院」で、53.5%である。次いで、「市役所や公共施設での用事」が39.5%、「買い物」が25.5%である。

福祉巡回バスで利用した施設で最も多いのは、「市民病院」で、46.5%である。次いで、「市役所(出張所)」が33.8%、「最寄の駅」が19.1%である。

福祉巡回バスを利用していた理由で最も多いのは「目的地の近くまでバスが行くから」で、60.5%である。次いで、「運賃が無料だから」が56.7%、「乗り継ぎをしなくてよいため」が28.0%である。

(2) 福祉巡回バスを利用しなかった方の外出実態について

60歳以上で福祉巡回バスに乗ったことがない方の理由をみると、「特に必要がなかったから」が最も多く、49.8%である。また、「家の近くから乗ることができなかったから」は14.8%である。

60歳以上で福祉巡回バスに乗ったことがない方の外出する手段は、「徒歩」(66.2%)、「電車・モノレール」(52.3%)、「自転車」(33.4%)の順に多い。

(3) 福祉巡回バスを利用していた方の現在の外出実態について

福祉巡回バスを利用していた方の現在の外出する手段は、「徒歩」(57.3%)、「路線バス」(45.2%)、「電車・モノレール」(40.1%)の順に多い。

外出頻度は、「ほぼ毎日」(28.7%)、「週4、5日」(20.4%)、「週2、3日」(29.9%)、「週1日」(6.4%)を合わせると、85.4%が、現在、週1日以上外出している。

現在の外出頻度の増減は、「変わらない」が最も多く、47.8%である。

外出が減った方の利用していたルートは、「中ルート」が最も多く、41.7%である。また、外出が減った理由をみると、「他の交通手段では費用がかかるから」が最も多く70.0%である。次いで、「他に交通手段がないから」が26.7%、「体調の変化」が20.0%である。

福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出の頻度が減り、できなくなったことは、「通院」が最も多く、43.3%である。次いで、「買い物」が36.7%、「市役所や公共施設での用事」が33.3%である。

以上のことから、福祉巡回バスの利用実態として、利用していた割合は60歳以上の方でも2割弱であり、利用頻度は特に決まっていなかった方が多いことが分かった。また、利用していなかった方にとっての福祉巡回バスは、60歳以上でも「特に必要がなかった」方が約5割である一方で、「家の近くから乗ることができなかった」という方も14.8%おられた。

福祉巡回バスの廃止による影響としては、外出頻度は変わらないという方が最も多く、減った方であっても、8割以上が、現在、週1日以上外出されている。外出の頻度が減った理由では「他の交通手段では費用がかかるから」との回答が多く、福祉巡回バスがなくなったことによってできなくなったことでは、「通院」との回答が多かった。

2 「今後必要だと思う外出支援」についての意見

「外出する際に不便だと思うこと」については、46.2%が「特にない」を選択していた。

また、「今後、必要だと思う外出支援」についての意見で、最も多かったのは「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」で、38.2%である。

次いで、「公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助」が36.4%、「公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充」が31.4%である。

（1）「市が運営し、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」について

病院、公共施設（例えば市役所や総合福祉会館）など、特定の施設への送迎を目的としたバスを求める意見が多い。福祉巡回バスに乗っていた人からも要望の多い意見である。

一方、市が運営することについては、自由記述において、「市営」や、「無料」ということに対する反対意見があった。少額でも負担するべきであるという意見もある。また、福祉巡回バスの復活を望む声の中にも、今までと同じ形態のバスではなく、「低料金で」「小型のバスを」などの意見があった。

（2）「公共交通機関の充実・利用支援」について

公共交通機関、主に路線バスのルート拡充が求められている。ルート拡充について具体的な記述があったものとしては、千里山・佐井寺地域や山田・千里丘地域が多かった。

路線バスの運行本数の増便を求める意見も多い。路線バスの本数が少ないために利用を控えている人もおり、具体的な記述があった通勤時間帯や深夜帯を含め、1時間に1本程度の運行をしているルートの増便が求められている。

また、福祉巡回バスの廃止に伴い、外出の頻度が減り、できなくなったこととして「通院」をあげた人が最も多かったことから、市内の病院へ向かうための路線バスの増便やルート拡充が特に求められていると考えられる。

ルート拡充や増便以外では、路線図や時刻表が分かりにくいために路線バスの利用ができないといった意見もあり、路線バスを利用しやすいような支援も求められている。

低床バスの認知度は高くなっているが、「路線バスが低床バスになっている」ということの認知が進むことにより、より多くの人の利用につながることも考えられる。

駅については、バリアフリー化を求める意見が多かった。